

磐田市における家庭教育への支援について【提言】

(平成21・22年度磐田市社会教育委員会報告)

近年、子どもたちの様々なあらわれに見られる問題点の多くが家庭のあり方にあり、家庭教育の重要性が叫ばれています。家庭は、子どもの成長を促し、人格形成を図るうえでの基礎となる場です。しかし、個々の生活空間であるがゆえに、他者が入り込み、直接関わったり支援したりすることは大変難しい側面を持っています。

このような家庭教育が持つ特有な課題を踏まえるなかで、磐田市社会教育委員会では、平成19・20年度に引き続き、21・22年度においても継続して家庭教育への支援のあり方や方策について討議を重ねてまいりました。今期は、これまでの検討結果である「家庭教育の啓発、推進のための六つの活動項目」の働きかけを重視し、啓発ポスターの作成・配布、アンケート調査による実施状況の考察を行いました。

今後は、六つの活動項目の周知をさらに促進し、啓発活動を発展させ、展開していくことが課題です。そのためには、まず情報発信の機会を確保するとともに、家庭教育への支援策として、学校を含む地域ぐるみでのネットワークづくりが必要と考えます。

家庭や地域における教育力の向上のため、親や家族による家庭教育を側面から支援するうえで、子どもたちの自立や社会性の育成などを図り、健全な人間形成につなげていくことが重要です。

よって、当委員会は次の1、2のポスター掲出の取組みを踏まえ、3の支援策を提言します。

1 家庭教育啓発用ポスターの作成、掲出

- (1) ポスターの概要・・・六つの活動項目を具体的な呼びかけとして掲載(別紙参照)
- (2) 配布先
 - ・市内各自治会、公共施設、公民館、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等
 - 計461箇所

2 反響等についてのアンケート調査実施

- (1) 回収状況・・・回収率 83%(配布156箇所、回収129箇所)
- (2) 結果【家庭教育についての意見等】(別紙参照)
 - ・親教育が大切です。親の意識の差、過保護と無関心の両極端も目立ってきています。
 - ・家庭の教育力が低下し、しつけなど基本的なことが理解できていない面があります。
 - ・あいさつなどは、園や学校内ではできるが、地域や家庭ではできていない傾向があります。

3 これからの家庭教育支援の方策【提言】

- (1) 家庭教育の大切さの啓発活動
 - 六つの具体的活動項目について検討しながら、呼びかけから運動に発展させる。
 - 啓発ポスターを改良していくこと、併せてリーフレット等身近に掲示できるものを作成していくことなど、目に見える方法により、啓発活動を促進する。
 - 「教育委員会だより」「広報いわた」などの広報誌や市及び教育委員会ホームページを活用し、家庭教育の大切さや社会教育委員会の取組みについて、情報発信の機会を多く確保する。
 - 保育園、幼稚園、学校、公民館、子供会、青少年健全育成会、自治会、社会教育団体、公共施設などが、それぞれの教育機能や組織力を活かして働きかけを粘り強く繰り返し実施していく。この継続の積み重ねから得られる成果や課題を共有し、大切にすることにより、地域や社会が一体となった家庭教育の推進を図る。
- (2) 地域ぐるみでの家庭教育支援のネットワークづくり
 - 既存の地域資源を有効活用し、学校や公民館、各種団体などが連携して活動することにより、地域ぐるみで家庭教育支援のネットワークを構築する。
 - それぞれの地域の特性や人材(財)を活かした「地域ぐるみの家庭教育」を支援していく。祭典などを始めとする伝統行事や各種の地域活動へ親子での参加を促進し、人格形成の基礎となる多くの体験機会を提供することで、自立や社会性の醸成を図る。